

## 神々の里 出雲の旅(2)

4/14/2015

北村社会福祉士事務所

代表 北村弘之

出雲の国巡り2日目は、庭園美術館と異名のある「足立美術館」と、まんが王国鳥取県の「水木しげる」の街の訪問でした。

前日の宿泊は「美肌水」で有名な玉造温泉。その中でも創業が明治元年という「長楽園」。日本旅館であっても、食堂は趣のある洋風部屋。ロビーと同様、有名な画家の絵や骨董品が飾っており、くつろぎのもてる場所でした。この旅館はかつて昭和天皇が泊まれたということで、風格と気品の中に現代の要素を取り入れた嗜好がいくつも見られました。そのひとつが100畳はあるかと思われる「露天風呂」。木々や岩に囲まれた中、しっとりとしたお湯でした。しかも、男女混浴。入浴者は紙のパンツ等をはいてお湯に浸かるのです。もうひとつは、立派な回遊式庭園でした。

さて、旅館の庭園以上に整備された美術館に足を運びました。足立美術館です。この土地の出身である実業家「足立全康」氏によって作られたものです。12年連続日本一の庭園として、米国の日本庭園専門誌に選ばれているのです。それは見事というほかはありません。たった6名の庭師で手入れを行い、また毎年創作しているのです。



生の額絵(館内から庭園を観る)

庭園だけではありません。絵画や陶芸なども一級品揃いです。特に横山大観の絵は何と140点収蔵しており、常時入れ替えをして入場者の目を楽しませていました。他に、橋本閑雪、竹内栖鳳、また若手の日本画家、かわいい童画などがあり、私は気に入った複製の童画を購入し家に飾りました。

陶芸家では、地元出身の河井寛次郎や北大路魯山人の壺も多数展示してありました。私にとっては、展示品よりも、そこに掲示されていた文書に大変興味がありました。右にあげたものです。この言葉を読んでみると、私にとって何か訴えるものがありました。陶芸家の名前は例の「鑑定団」で知っていましたが、やはり哲学者であり詩人であると強く感じました。

この世は自分をさがしにきたところ  
この世は自分を見にきたところ  
どんな自分が見付かるか自分  
どこかに自分があるのだ...出て歩く  
新しい自分が見たいのだ...仕事する  
仕事が見付けた自分  
自分さがしてゐる仕事

河井寛次郎

美術館館内をゆっくりと3時間程楽しんだ後は、マンガ王国鳥取県です。送迎バスで米子駅に着くと、構内に見える電車のラッピングに大きく「コナン」の絵。そうここはコナンの原作者青山剛昌氏そして、ゲゲゲの鬼太郎の原作者水木しげる氏の故郷なのです。米子駅から電車に乗り、一路終点の境港駅迄行くと、各駅には妖怪たちの愛称名がついており、車内放送で正式駅名とともに呼んでいるのに驚かされました。ちなみに、境港駅は「鬼太郎駅」でした。その境港線は4編成の電車が走っており、それぞれが鬼太郎電車、ねこ娘電車、目

玉おやじ電車、ねずみ男電車と命名され、外のラッピングも、中の椅子や内装もそれぞれそれぞれの妖怪が描かれています。

終点で降りると、「水木しげるロード」が待ち構えていました。約 800mの商店街の中に、妖怪のブロンズ像が 153 体もありました。平日のためか、観光客はまばらでしたが、殆どの妖怪達の姿をみてきました。そして、「水木しげる記念館」で原作者自身の人生を初めて知ることになりました。現在 93 歳。住まいは調布市ですが、イベント開催時には故郷境港市に帰ってくるそうです。記念館で初めて知ったことは何と、彼は片腕を戦争で失っているのです。その人が、のちに妖怪まんがで大成。



幼いころに漫画がうまいと先生に見出されたのですが、あまたの試練が待ち受け、ようやく売れ出したのは 50 歳前後だったようです。

足立美術館の足立全康氏も苦難しながら事業を成功させたのは、やはり 50 歳前後。足立氏は「横山大観」の絵を求めたい一心から、また水木しげる氏は「妖怪」への好奇心から自分のやりたいこと成し遂げる原動力を得ているように思えます。「途中で諦めるな、とにかくひたすらに継続」こんなことを教えられた 2 日目でした。



水木しげる記念館で原作者の言葉が妖怪風に話している言葉がいくつかありましたのでご紹介します。

一つ目は、左の漫画です。

「人間はいろんなものを食べますが・・・」

「死ねば大地に食べられるわけですよ」

二つ目は

「自分の知恵を使わず 人の使った知恵を使おう  
としているヤツは幸せになれん」

三つ目は

「夫婦円満を続けるコツは？」

「相手に何も要求しない。何も期待しないこと」

短い 2 日間の出雲と境港の旅で印象に残ったことは、街のいたる所に社があり、社に守られて人は住んでいられるということでした。日本には、昔から森羅万象すべてのものに神が宿ると言われてきました。地元の妖怪伝説もそうした教えの表れではないでしょうか。なまけ心、憎しみなど悪い心が妖怪となって私達に諭してくれるのだと思います。